

氏名	石 濱 琢 央
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3872号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	臼蓋形成不全股における関節唇形態の研究
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 平木 祥夫 教授 光嶋 勲

学位論文内容の要旨

臼蓋形成不全股では荷重負荷が外側辺縁の関節唇に集中することにより、同部の剥離、断裂を生じやすい。関節唇の断裂は、変形性股関節症の重要な危険因子である。臼蓋形成不全股を含む40例、77股の股関節造影像を用いて、臼蓋および関節唇による骨頭被覆について研究した。関節唇の長さの指標として、関節造影像上の関節唇の長さを骨頭横径で除した値 A(%)を用いた。関節造影像上の関節唇先端までの CE 角(LCE 角)から骨性臼蓋縁までの CE 角を引いた値(LCE-CE)を関節唇による骨頭被覆角度とした。本研究の結果、臼蓋形成不全の程度と、関節唇の長さの間には負の相関関係があることが判明した。つまり骨性臼蓋の形成が悪いほど、関節唇は長くなることが判明した。また、関節唇断裂群は非断裂群よりも関節唇が有意に長い。長くて不安定な状態にある関節唇は、断裂しやすく、変形性股関節症へと進展しやすいと考えられた。

論文審査結果の要旨

本論文は、臼蓋形成不全股では荷重負荷が外側辺縁の関節唇に集中することにより、変形性股関節症の重要な危険因子である同部の剥離、断裂を生じやすいことから、股関節造影像を用いて臼蓋および関節唇による骨頭被覆について研究したものである。

本研究の結果、臼蓋形成不全の程度と、関節唇の長さの間には負の相関関係があることが判明し、長くて不安定な状態にある関節唇は、断裂しやすく、変形性股関節症へと進展しやすいと考えられた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。